

SPARX

# 2011年3月期第2四半期決算 説明会資料

2010年11月25日



スパークス・グループ株式会社

# 2011年3月期第2四半期の業績 と 今後の施策



## 「実績」と「今後の施策」

### ▶ 実績：再成長に向けた経営基盤の整備に注力

- 現状のAUMで基礎収益が均衡するレベルまで経費を削減
  - 「のれん」償却前の営業利益は黒字に転換
- スパークスがOne Companyとして成長する体制作りは完了
  - 子会社CEO交代による新しいマネジメント体制
  - 韓国ロッテのストック・オプション非行使によりCosmo社の資本構成が確定
  - SIHK株式のMCP Asset Managementへの売却
- スパークスの強みを生かした新商品の立ち上げ
  - 「スパークス・海通・グレーターチャイナ・ファンド」の設定



### ▶ 施策：再成長を加速させ、収益拡大と利益の黒字定着

- グループ各社の再成長とグループが一体となつてのAUM拡大
  - 日本でのビジネス回復、Cosmo社は好調を維持、PMA社は回復を目指す
  - グループ一体でのマーケティングによる既存商品でのAUM拡大
- 新戦略立ち上げによるさらなる飛躍
  - SPARXのストーリーを具体化したSPARXならではの商品提供
    - » Pan-Asia Long-Short戦略の立ち上げ
    - » Pan-Asiaロング・オンリー投資戦略の立ち上げ
    - » グリーン・テクノロジーを軸とするSPARX Green Society Fundの設定



## 2011年3月期 第2四半期決算サマリー (概要)

経費の大幅な削減により、現状のAUMでも基礎収益が均衡するレベルまで回復

- ▶ 営業収益： 37.2億円 (前年同期比▲11.1%)
- ▶ 営業費用・一般管理費： 40.4億円 (同▲6.9%)
- ▶ 営業損失： ▲3.1億円 (前年同期：▲1.4億円)
- ▶ 四半期純損失： ▲12.1億円 (同： 1.1億円)
- ▶ 自己資本： 162.1億円(前年度末：182.3億円)

営業利益(のれん償却前)  
4.6億円(前年同期：0.9億円)<sup>(注)</sup>

これまで以上にビジネスの軸足を、「アジア/グループカの発揮」に移し、収益の拡大と利益の黒字定着を目指す。



(注) 前年同期の営業利益(のれん償却前)からは、営業投資有価証券売却・評価損益(4.4億円)を除外して表示している(2011年3月期 第2四半期の当該数字は、ゼロ)。

## 2011年3月期 第2四半期決算サマリー (損益計算書)

### ▶ 営業収益 (37.2億円、前年同期比▲11.1%)

- 成功報酬 (8.7億円)及びその他収益(3.0億円)は好調
- 残高報酬は回復途上(25.4億円、同▲23.5%)  
 ……AUM平残は10.2%減少 (6,160億円)、残高報酬料率は低下 (0.72%)

### ▶ 営業費用・一般管理費 (40.4億円、同▲6.9%)

- 海外子会社経営幹部交代に関する費用等の一時的要因で高止まり

⇒ 営業損失 ▲3.1億円 (前年同期: ▲1.4億円)

営業利益(のれん償却前)  
4.6億円(前年同期: 0.9億円) (注)

### ▶ 営業外収益(2.7億円)、営業外費用(4.4億円)

- 為替差損の発生が影響

### ▶ 特別利益(0.4億円)、特別損失(4.1億円)

- 資産除去債務会計基準適用、経営構造改革関連損失などの計上が影響

⇒ 四半期純損益 ▲12.1億円 (前年同期: 1.1億円)



(注) 前年同期の営業利益(のれん償却前)からは、営業投資有価証券売却・評価損益(4.4億円)を除外して表示している(2011年3月期 第2四半期の当該数字は、ゼロ)。

## 2011年3月期 第2四半期 損益計算書等の概要

	2010年3月期		2011年3月期	
	第2四半期	通期	第2四半期	前年同期比
運用資産残高(AUM)平残 (億円)	6,860	6,527	6,160	-10.2%
営業収益 (百万円)	4,193	7,893	3,726	-11.1%
営業費用・一般管理費 (百万円)	4,342	8,852	4,040	-6.9%
営業損失 (百万円)	-149	-959	-314	-
経常損失 (百万円)	-253	-446	-487	-
四半期純損益 (百万円)	119	398	-1,217	-
従業員数(期末) (人)	208	203	176	-15.4%
TOPIX (期末)	909.84	978.81	829.51	-8.8%



(注1) 上記表中の数字は、「前年同期比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」は、四捨五入により小数点第1位まで表示している。

(注2) 「従業員数(期末)」は、役員を含まない従業員数。

(注3) 上記表中運用資産残高は、COSMO社およびPMA社の運用資産残高を含む。なお、2010年9月末の運用資産残高については、速報値をベースに算定している。

## 営業収益内訳・成功報酬付AUM付帯比率

営業収益内訳		2010年3月期		2011年3月期	
		第2四半期	通期	第2四半期	前年同期比
残高報酬	(百万円)	3,323	6,012	2,541	-23.5%
料率(手数料控除後)	(%)	0.82%	0.79%	0.72%	-0.10
成功報酬	(百万円)	321	805	876	172.8%
営業投資有価証券売買損益	(百万円)	442	442	-	-
その他営業収益	(百万円)	105	631	308	192.0%
営業収益 合計	(百万円)	4,193	7,893	3,726	-11.1%
成功報酬付AUM比率		2010年3月期		2011年3月期	
		第2四半期	通期	第2四半期	前年同期比
スパークス・アセット社	残高(億円)	1,449	1,203	1,081	-25.4%
	比率(%)	47.0%	43.1%	44.3%	-2.7
COSMO社	残高(億円)	1,925	2,037	1,959	4.8%
	比率(%)	87.7%	84.2%	81.1%	-6.5
PMA社	残高(億円)	1,001	918	546	-45.5%
	比率(%)	72.7%	64.9%	52.7%	-20.0
合計	残高(億円)	4,377	4,158	3,587	-18.0%
	比率(%)	65.7%	62.8%	60.9%	-4.8



(注1) 上記表中の数字は「前年同期比」「残高報酬・料率(手数料控除後)(%)」と「成功報酬・対AUM付帯比率(%)」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」「対前年度比」については、四捨五入により小数点第1位まで表示している。なお「残高報酬・料率(手数料控除後)(%)」の「前年同期比」と「成功報酬・対AUM付帯比率(%)」の「対前年度比」は変化率ではなく、単純な増減幅を表示している。

(注2) 残高報酬料率(ネット・ベース) = (残高報酬 - 残高報酬に係る支払手数料) ÷ 期中平均運用資産残高

(注3) 2010年9月末の数字は、速報値に基づいて算定している。

# 経費 内訳

(単位は全て百万円)	分類	2010年3月期		2011年3月期	
		第2四半期	通期	第2四半期	前年同期比
		内、賞与 72百万円		内、賞与等 696百万円	
支払手数料	営業費用	505	960	327	-35.3%
人件費	一般管理費	1,428	3,379	1,797	25.9%
委託計算費	営業費用	90	127	35	-60.8%
旅費交通費	一般管理費	121	219	98	-18.9%
不動産賃借料	一般管理費	433	732	249	-42.6%
事務委託費	一般管理費	367	646	211	-42.5%
減価償却費	一般管理費	108	202	80	-25.5%
その他	一般管理費	602	1,062	458	-24.0%
のれん償却額	一般管理費	684	1,522	782	14.3%
営業費用・一般管理費 合計		4,342	8,852	4,040	-6.9%

55.4億円 (前年度)  
 経常的経費  
 (今年度:年換算) 44.7億円



- (注1) 上記表中の数字は、「前年同期比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」は、四捨五入により小数点第1位まで表示している。  
 (注2) 上記表中の「人件費」には、派遣社員等に関する費用も含んでいる。  
 (注3) 「負ののれん償却額」として、57百万円(2010年3月期第2四半期)、49百万円(2011年3月期第2四半期)が営業外収益に計上されている。  
 (注4) 2010年3月期 第2四半期「その他」は、「その他(営業費用)」と「その他(一般管理費)」を合計して表示している。

# 基礎収益力

## 残高報酬(手数料控除後) VS 経常的(固定的)経費

		2010年3月期	2011年3月期2Q
		通期	(年換算ベース)
AUM平残	(億円)	6,527	6,160
残高報酬料率 (手数料控除後)	(%)	0.79	0.72
残高報酬 (手数料控除後)	(百万円)	5,135	4,428
経常的経費	(百万円)	5,543	4,470
基礎収益	(百万円)	▲408	▲42



(注1) 上記表中数字は単位未満を切り捨て表示している。「残高報酬」は概算値として、残高報酬料率からの年換算値を表示している。

(注2) 「経常的経費」とは①支払手数料全額、②実績賞与(賞与引当金繰入、会計上給与に含まれているものを一部含む)、③海外子会社の役職員に対する退職金等の一時的支払、④のれん償却費の合計を、営業費用・一般管理費の合計から控除した費用の合計を指す。

## 2011年3月期 第2四半期決算サマリー (貸借対照表)

### ▶資産の部 (331.7億円、前期末: 367.7億円)

- 現預金残高(123.6億円、前期末152.7億円)
- 投資有価証券(83.9億円)・・・主にグループ各社が運用するファンドへのシードマネー

### ▶負債の部(150.1億円、同:156.8億円)

- 一年以内返済長期借入金(30.0億円)、長期借入金(50.0億円)、社債(49.0億円)

### ▶純資産の部(181.5億円、同:210.8億円)



流動性も含め、BSの健全性は十分に確保されている。



## 2010年9月末時点 貸借対照表概要

(単位:百万円)	2010年3月末	2010年9月末	前期末比
流動資産	19,090	15,457	-19.0%
うち、現預金	15,270	12,364	-19.0%
うち、有価証券	726	584	-19.5%
固定資産	17,684	17,714	0.2%
うち、のれん	7,623	8,655	13.5%
うち、投資有価証券	9,254	8,392	-9.3%
<b>(資産の部 合計)</b>	<b>36,774</b>	<b>33,172</b>	<b>-9.8%</b>
一年以内返済長期借入金	3,000	3,000	0.0%
社債	5,000	4,900	-2.0%
長期借入金	5,000	5,000	0.0%
<b>(負債の部 合計)</b>	<b>15,689</b>	<b>15,018</b>	<b>-4.3%</b>
資本金・資本剰余金	26,696	26,717	0.1%
利益剰余金	-3,868	-5,086	-
自己株式	-4,438	-4,438	-
少数株主持分	2,715	1,835	-32.4%
<b>(純資産の部 合計)</b>	<b>21,084</b>	<b>18,153</b>	<b>-13.9%</b>

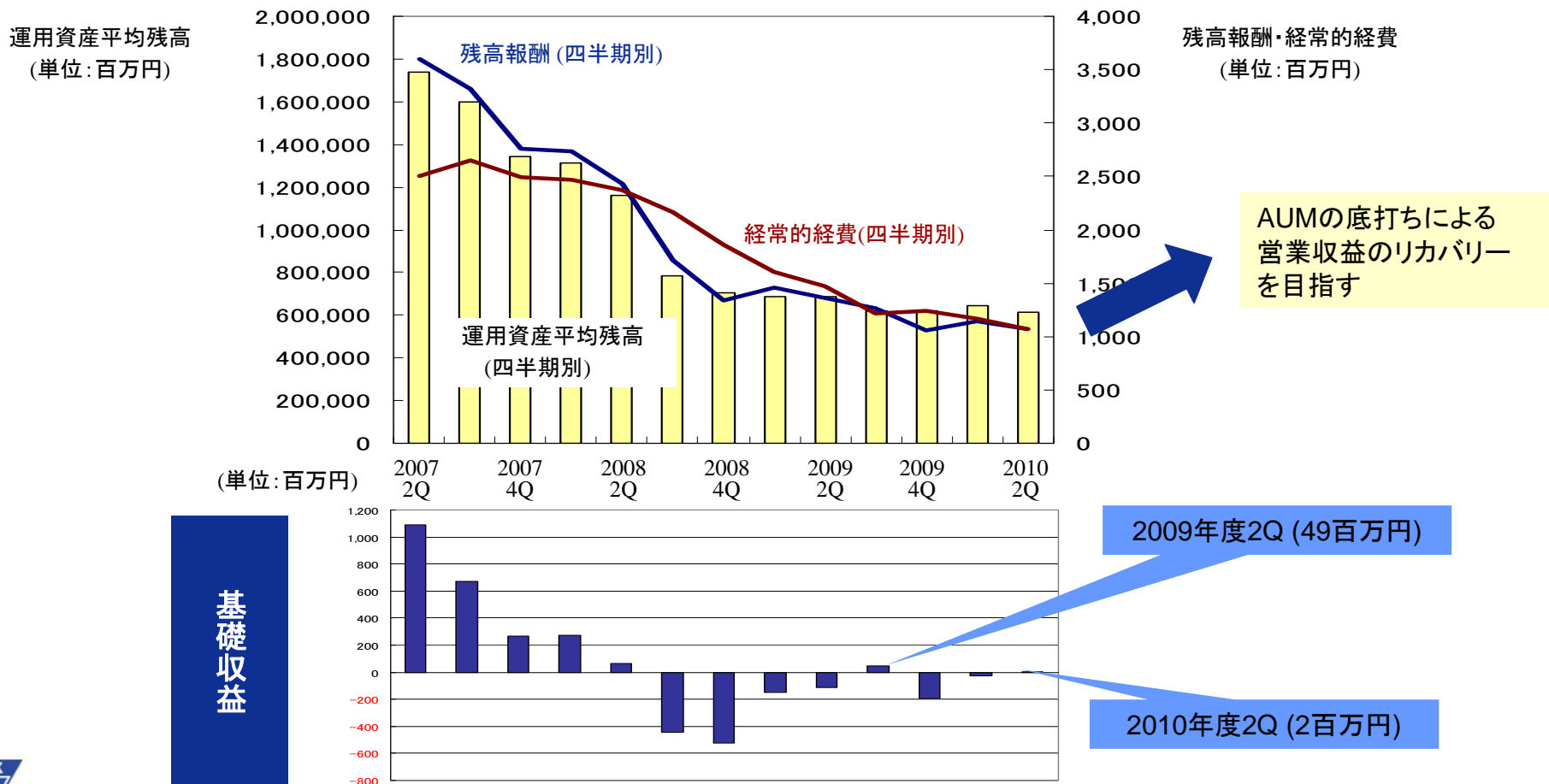
(注1) 上記表中の数字は、「前年同期比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」は、四捨五入により小数点第1位まで表示している。

(注2) 投資有価証券は、当社の運用ファンドへのシードマネーを含む。



# 「四半期ごとの基礎収益」では均衡水準にほぼ戻っている

四半期ごとの推移 (運用資産平均残高、残高報酬(支払手数料控除後)、経常的経費、基礎収益)



(注1) 「残高報酬(支払手数料控除後)」は概算値として、運用資産平均残高と残高報酬料率とで算出した換算値を使用している。

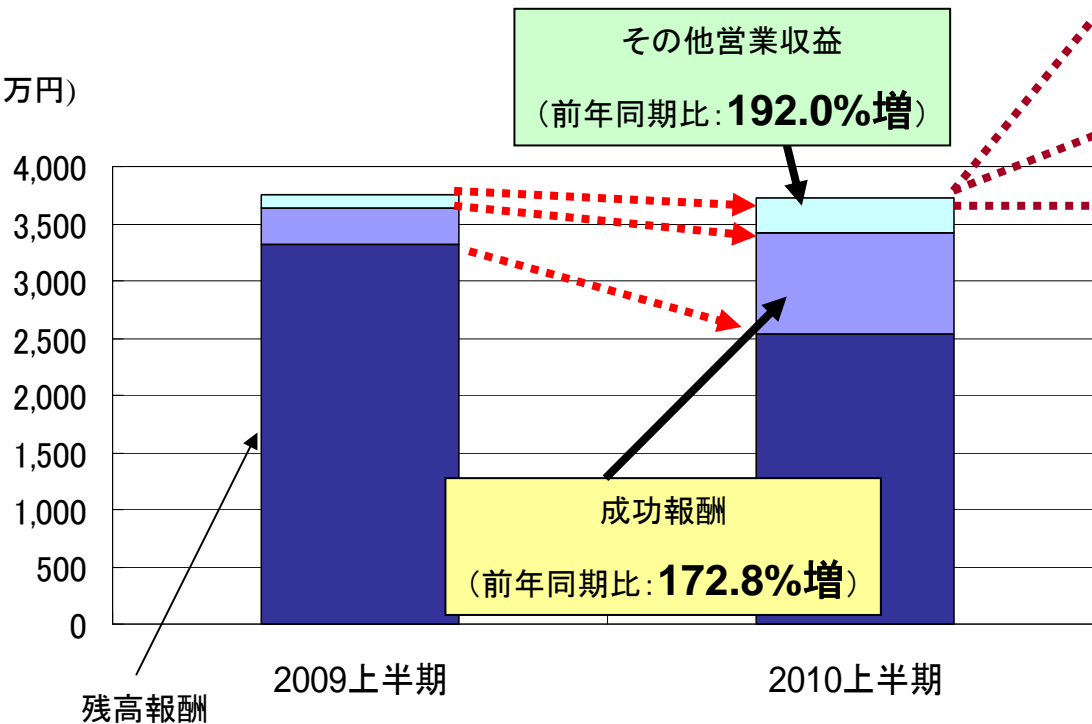
(注2) 「経常的経費」とは①支払手数料全額、②実績賞与(賞与引当金繰入、会計上給与に含まれているものを一部含む)、③海外子会社の役職員に対する退職金等の一時的支払、④のれん償却費の合計を、営業費用・一般管理費の合計から控除した費用の合計を指す。



# 「グループ各社の成長」と「グループ一体となった飛躍」で営業収益を拡大させる

四半期ごとの残高報酬・成功報酬・その他営業収益の推移

(単位:百万円)



2

## クオンタム・リープ

- SPARX ならではの商品提供 (Pan-Asia Long/Short戦略の立ち上げ等)

1

## オーガニック・グロース

- 成功報酬は回復  
- パフォーマンスは堅調



- パフォーマンスに支えられてAUMが回復へ

(注) 上記表においては、営業投資有価証券売却・評価損益を除外して表示している。

## 収益拡大に向けての第2四半期の動き

スパークス・グループがOne Companyとして成長する体制作りは完了

- ▶ 子会社の新CEOのもとで、One Companyになる組織体制が始動
  - Cosmo社:2010年7月、新CEO就任。SHCより、共同CEOを派遣
  - PMA社:2010年10月、新CEO就任。SHCより、副会長を派遣済
- ▶ 韓国ロッテが第2回ストック・オプション非行使。引き続き、両者が協働し、Cosmo社の成長を目指す。
  - Cosmo社への出資比率(当社:70.1%、韓国ロッテ:29.9%)は維持
  - Cosmo社の経営体制・経営方針は全く変更なし
- ▶ SIHK株式のMCP Asset Managementへの売却

「スパークス・海通・グレーターチャイナ・ファンド」の設定

- 信託期間:2010年11月30日から
- 中国最大級の金融グループ会社の海通証券と協働
- アジアに強い証券会社(東洋証券様)との提携による販売チャネル拡大



## Cosmo社:新マネジメント・メンバー



### ▶ Hahn Sull、CEO

- 2010年7月、Cosmo社入社
- 資産運用業界で21年の経験
- OOJOO Capital Partners Pte., Ltd. 創業者、Morgan Stanley I.M. ファンドマネージャー
- コロンビア大学(経済学士)



### ▶ 島中 敏文(しまなか としふみ)、共同CEO

- 1982年慶応義塾大学商学部卒業。トヨタ自動車入社。欧州、中近東市場向けマーケティングを担当。1989年シカゴ大学ビジネス・スクールにてMBA取得。1990年同社退職。その後、マッキンゼー社にて経営コンサルティングに取り組み、UFJ銀行にてM&Aなどを担当。
- 2005年10月、スパークス証券株式会社に入社。

## PMA社:新マネジメント・メンバー



### ▶ 松浦 崇久(まつうら たかひさ)、Vice Chairman

- 1974年4月 野村証券株式会社入社
- 1997年6月 野村アセット・マネジメント投信株式会社入社
- 2000年12月みずほ証券株式会社入社
- 2004年4月 同社常務執行役員
- 2007年4月 同社グローバル市場・商品部門長
- 2008年6月 TM Advisor株式会社設立、同社代表取締役
- 2010年1月 当社入社
- 2010年3月 PMA Investment Advisors Limited Vice Chairman(現任)
- 2010年6月 スパークス・グループ株式会社取締役(現任)



### ▶ Kam Bahra、CEO

- 投資銀行業界のfinance controlで20年以上の経験
- 2009年9月、PMA社COOからCEOに就任。
- ドイツ銀行、クレディー・スイス・ファースト・ポストン等で経験を積む
- ロンドン大学(航空工学士)

## 1 スパークス・アセット社の状況

### ▶現状の動き:「日本でのビジネス回復」

- 日本株運用のパフォーマンスは引き続き改善続く
- 海外からの大型資金導入
  - 日本株運用力、商品力(スマートグリッド)への高い評価
- アジア(中国)を軸にした公募投信設定

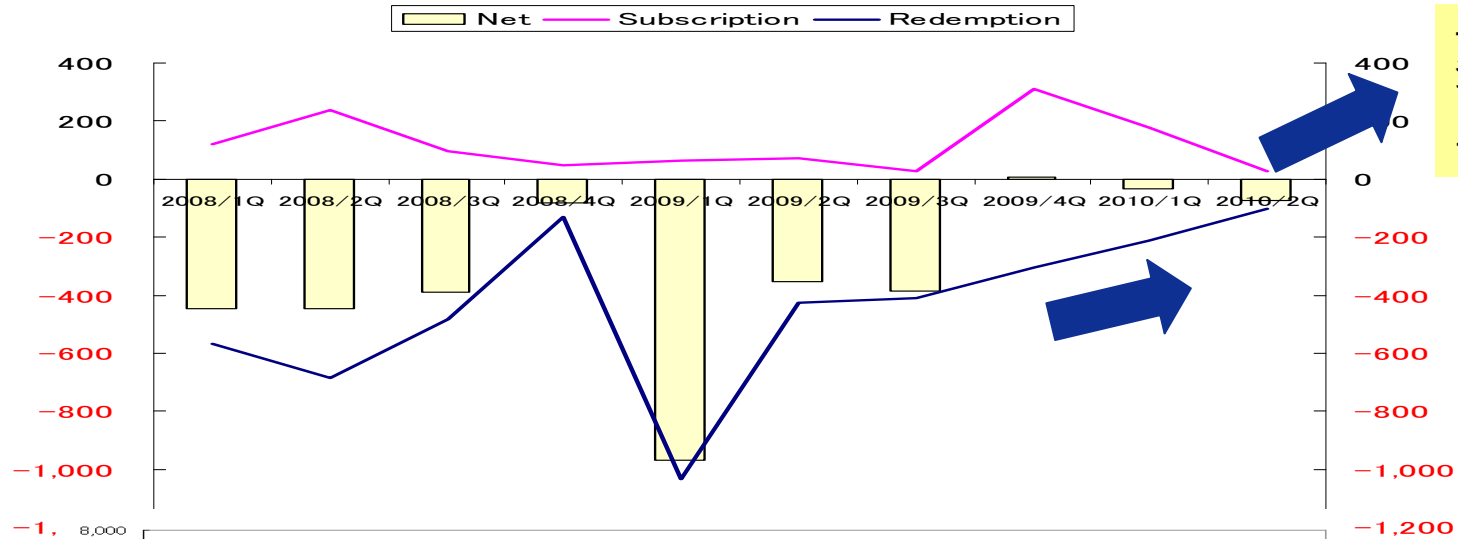
### ▶今後のチャレンジ:

- 日本株(単独)の市場環境の回復の動きの取り込み
- 商品ラインナップの偏在と組織規模のミスマッチの解消
- グループ全体の成長への貢献

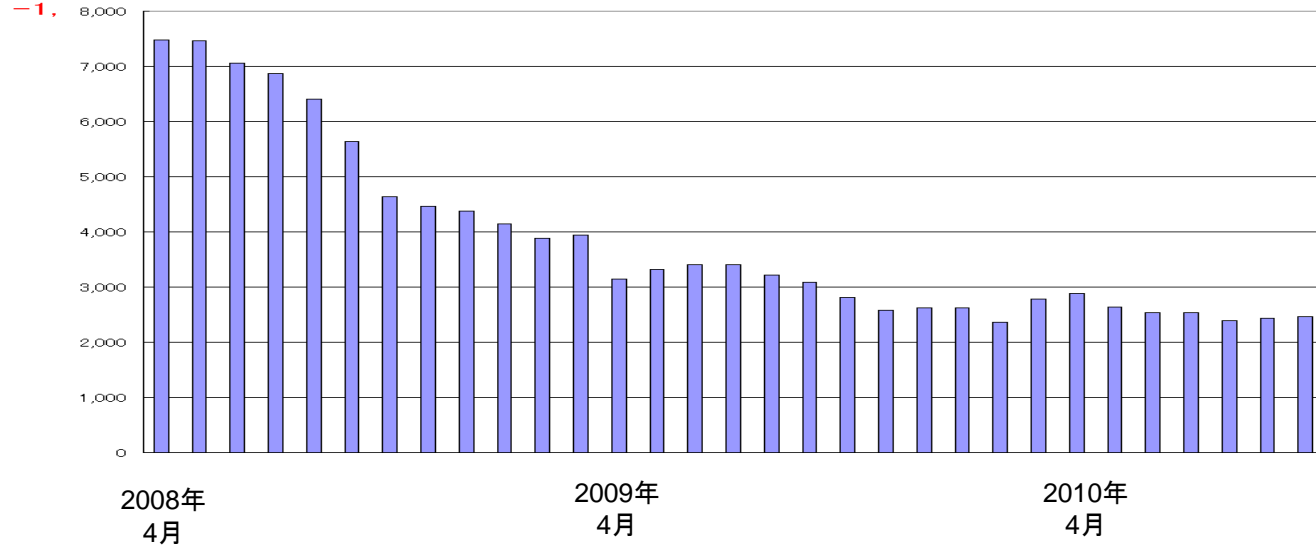


# スパークス・アセット社:AUMの解約は減少。大口の設定の動き。

(単位:億円)



一部の大手機関投資家に設定の動き  
(2010年10月  
125億円の設定等)



2010年10月末時点  
2,464億円



# 1 Cosmo社の状況

## ▶現状:

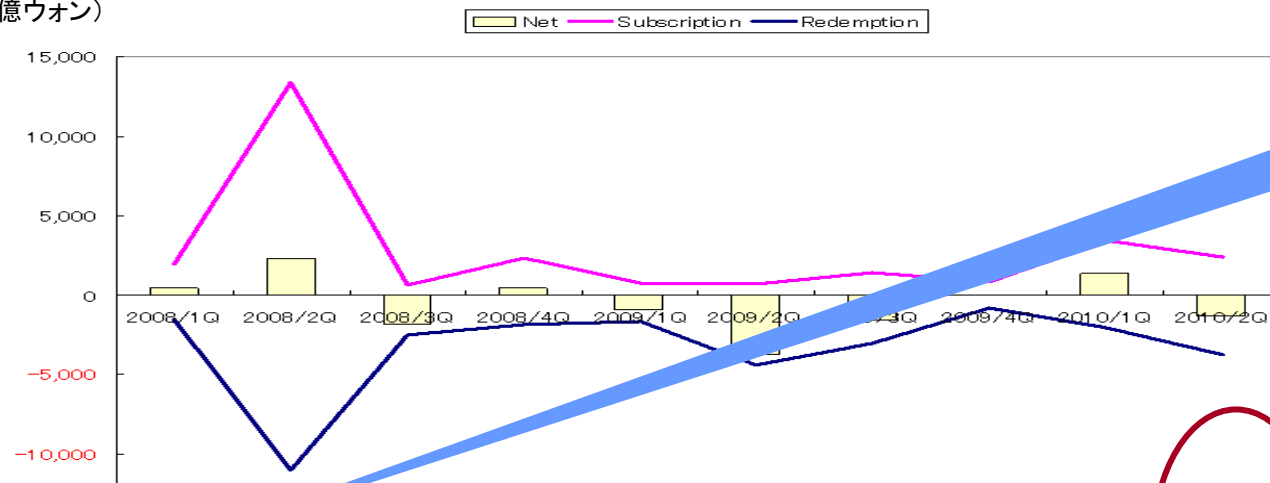
- 優れた運用成績と顧客からの高い評価
  - 成功報酬が増加
- AUM残高のピーク更新
- 投信ライセンス取得含め規制環境が好転
  - 韓国ロッテ・グループとの協業の可能性拡大

## ▶今後のチャレンジ:

- 海外顧客の解約に対するリカバリー: 韓国国内顧客への高い依存から、海外基盤への再拡大
  - トップ・マネジメント交代に伴う解約の動きに対し、グループ一体となつてのマーケティング攻勢
- プロダクトのバラエティーの拡大／販売チャネルの多様化
- グループ全体の成長への貢献
  - 日本市場への浸透を深める

# Cosmo社(KRW) : AUM残高はピーク更新。トップマネジメント交代による解約が発生。

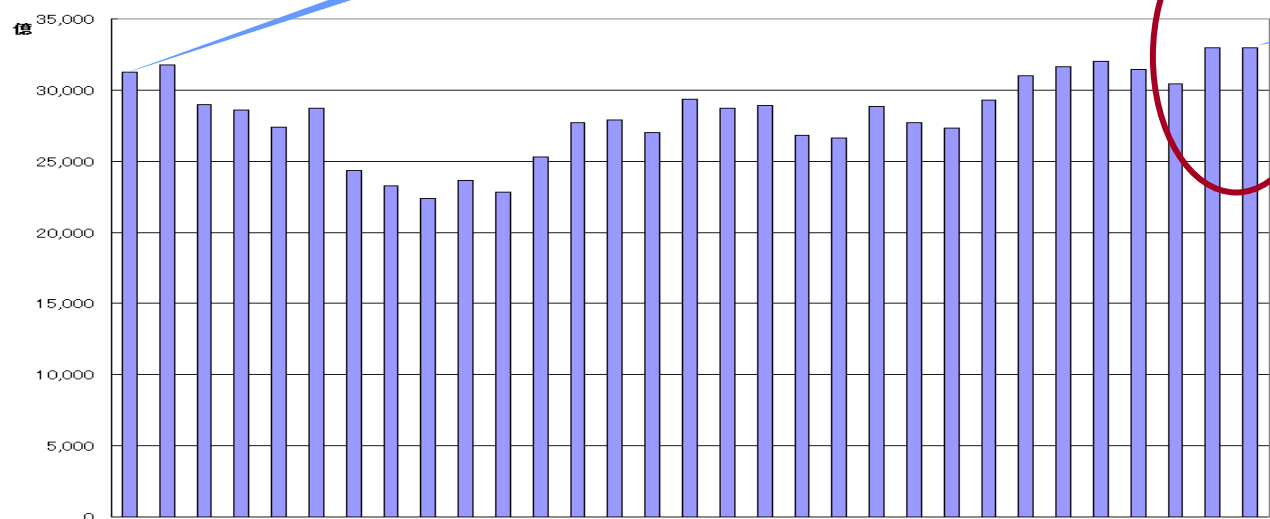
(単位: 億ウォン)



2008年4月末時点  
31,270億KRW  
3,259億円



2010年10月末時点  
33,001億KRW(+5.5%)  
2,362億円(▲27.5%)



2008年  
4月

2009年  
4月

2010年  
4月

# 1 PMA社の状況

## ▶現状:「回復を目指すPMA」

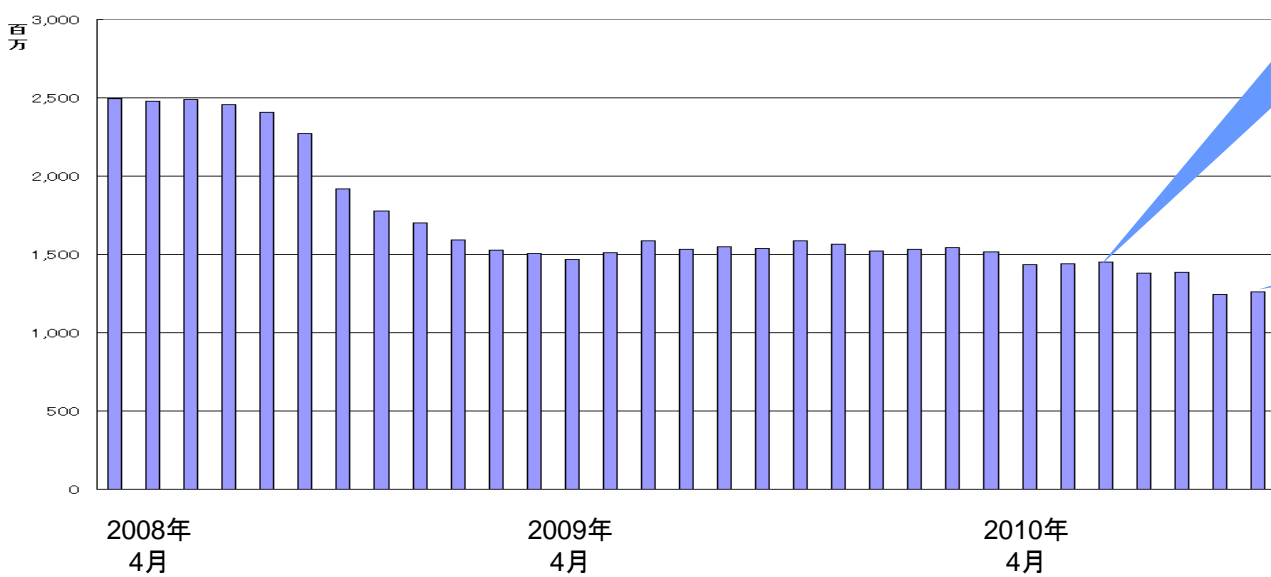
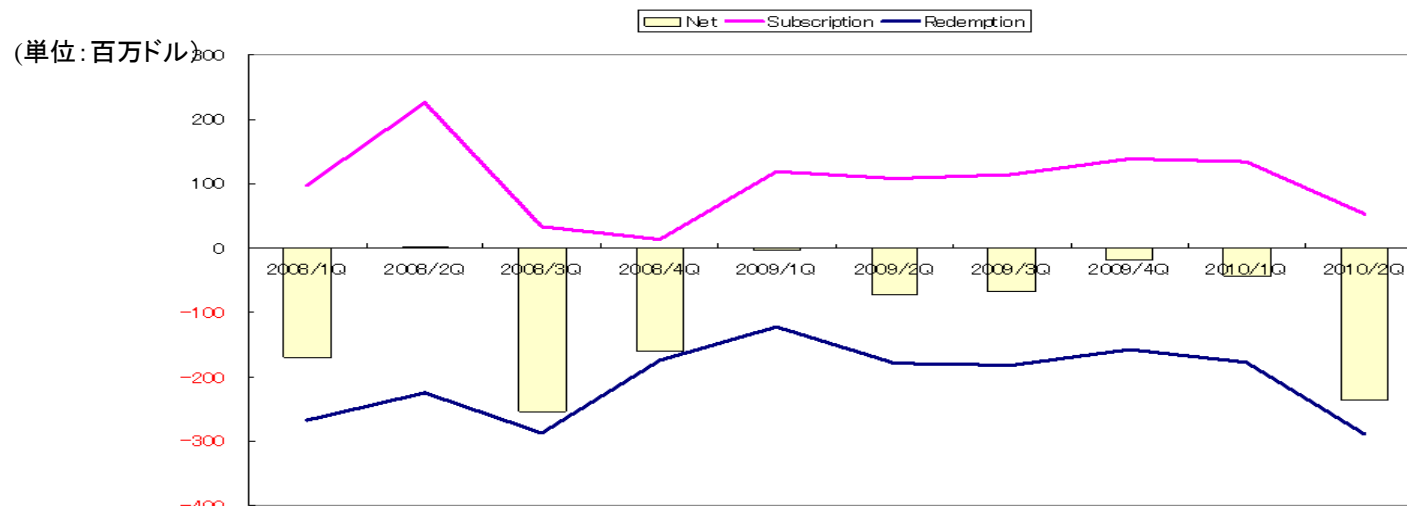
- AUM低迷するも、運用力には高い評価続く
  - マクロ系ファンドを中心にパフォーマンス良好で、成功報酬は大幅増加
  - AsiaHedge awardsへのノミネーションと市場からの高い評価
- 既存ビジネスから派生したその他収益が拡大

## ▶今後のチャレンジ:

- 既存ファンドの顧客ポートフォリオ再構築
  - トップ・マネジメント交代に伴う解約の動きをリカバリーする「新規・追加」の設定
- 派生ビジネスの着実な拡大
  - 運用ビジネスで培ったアジア・ネットワークの活用
- グループ全体の成長への貢献
  - アジア展開の中核拠点へ



# PMA社(US\$) : 新規設定は引き続き堅調。トップマネジメント交代による解約が発生。



2010年4月末時点  
1,433百万US\$  
1,347億円



2010年10月末時点  
1,258百万US\$ (▲12.2%)  
1,013億円 (▲29.5%)



## 2

## 収益拡大に向けての今後の施策－①

## アジアの株式に投資するロング・ショート投資戦略の立ち上げ

## ▶ ファンドの年度内設定を目指す

- 運用開始から1年で、2億ドルから3億ドルの規模を目指す
- スパークスの強みである日本企業の分析をベースに、成長著しいアジアも視野に入れる

## ▶ 運用体制の構築をおおむね完了

- グループ・ワイドに選抜した調査チームを設置
  - ▶ スパークス、PMA社、Cosmo社で十分な実績を上げてきたファンドマネージャー・アナリストによる調査チーム

## ▶ 日本を理解した上で、アジア全体のダイナミズムを分析

- 環境関連技術・農業・食品・ライフスタイル等の業種に注目



2

## 収益拡大に向けての今後の施策－②

アジアの株式に投資するロング・オンリー投資戦略の立ち上げ

- ▶ 日本のプロフェッショナルとアジアのプロフェッショナルが共同で運用

グリーン・テクノロジーを軸とするSPARX Green Society Fundを  
設定する

- ▶ 海外機関投資家が年内にも、200-300億円規模で投資する可能性



## 参考資料



## 運用資産残高の増減(2010年3月末～2010年9月末)

事業主体別						(単位:億円)
	2010年3月末	流入	流出	純流出入	運用・為替 差損益等	2010年9月末
スパークス・アセット社	2,783	205	-313	-108	-234	2,440
COSMO社	2,419	453	-452	0	-5	2,414
PMA社	1,415	165	-411	-246	-130	1,038
当社グループ全体	6,618	823	-1,178	-355	-370	5,892



- (注1) 上記表中の数字は、単位未満を切り捨てて表示している。  
 (注2) 「運用・為替差損益等」には、2010年3月末と2010年9月末の換算レートによる差額分が含まれている。  
 (注3) 2010年9月末の数字は、速報値に基づいて算定している。

## 各社別運用資産残高の増減(2010年3月末～2010年9月末)

(単位:億円)

スパークス・アセット社	2010年3月末	流入	流出	純流出入	運用・為替 差損益等	2010年9月末
日本株式ロング・ショート投資戦略	759	29	-75	-45	-12	702
日本株式集中投資戦略	205	15	-38	-23	-20	160
ファンド・オブ・ファンズ投資戦略	173	0	-19	-19	-17	137
日本株式一般投資戦略	339	6	-27	-21	-38	279
日本株式中小型投資戦略	1,253	40	-102	-61	-142	1,049
その他	51	113	-50	62	-3	111
合計	2,783	205	-313	-108	-234	2,440

COSMO社	2010年3月末	流入	流出	純流出入	運用・為替 差損益等	2010年9月末
韓国株式インデックス運用戦略	1,622	184	-48	136	11	1,770
韓国株式一般投資戦略	407	267	-194	73	-83	398
韓国株式ロング・ショート投資戦略	162	0	-96	-95	56	123
韓国株式集中投資戦略	120	0	-24	-24	8	105
その他	104	0	-89	-89	0	16
合計	2,419	453	-452	0	-5	2,414

PMA社	2010年3月末	流入	流出	純流出入	運用・為替 差損益等	2010年9月末
アジア株式投資戦略	386	1	-144	-142	2	246
アジア・欧州債券投資戦略	582	19	-221	-201	-87	292
アジア・マクロ投資戦略	153	58	-4	53	-50	157
その他	292	85	-41	44	5	342
合計	1,415	165	-411	-246	-130	1,038



- (注1) 上記表中の数字は、単位未満を切り捨てて表示している。  
(注2) 「運用・為替差損益等」には、2010年3月末と2010年9月末の換算レートによる差額分が含まれている。  
(注3) 2010年9月末の数字は、速報値に基づいて算定している。

## スパークス・アセット社 主要投資戦略 計測開始日来自リターン

(年率換算)

(コンポジット計測開始日～2010年9月末)

	日本株式 一般(合同口)	日本株式 中小型	日本株式 ロング・ショート (ドル建、Lev.2)	日本株式 ロング・ショート (円建、Lev.1)	日本株式 集中投資
コンポジット	6.35%	1.42%	12.86%	2.54%	3.36%
参考インデックス値	-2.88%	-0.83%	-0.85%	-4.46%	-3.43%
超過リターン	<b>9.23%</b>	<b>2.25%</b>	<b>13.71%</b>	<b>7.00%</b>	<b>6.79%</b>

参考インデックス	TOPIX配当込	ラッセル野村日本株ス タイルインデックス・ミッド・ アンド・スモール	TOPIX配当込 (ドルヘッジ)	TOPIX配当込	TOPIX配当込
計測開始日	1997年5月	2000年1月	1997年8月	2000年6月	1999年7月
コンポジット・リターン のポラリティ(年率)	23.49%	18.52%	11.14%	6.70%	21.30%

(注1) 上記表中の数字は、スパークス・アセット社で運用する主要な投資戦略のコンポジット・リターンを社内資料に基づいて作成した。表中の「参考インデックス」とは、相対比較のために便宜的に採用した指標であり、顧客から要請されているベンチマークとは限らない。

(注2) リターン算出基準は次の通り。「日本株式一般」「日本株式中小型」「ロング・ショート(ドル建、Lev2)」「集中投資」については、修正ディーツ法・運用関連手数料控除前、「ロング・ショート(円建、Lev1)」は基準価格法・運用手数料控除後。また、上記数字は四捨五入により小数点第1位まで表示している。

(注3) 「TOPIX配当込(ドルヘッジ)」は1ヶ月為替フォワード・レートで完全にヘッジされた場合のドル建のリターンを計算している。

(出所) スパークス・グループ (2010年9月末現在)



## スパークス・アセット社 コンポジット算出に関する追記

1. 各コンポジットはSPARXグループのグループ会社(ただし、COSMO社、PMA社を除く)が運用するポートフォリオを対象としている。
2. 今回提示した各コンポジットの投資戦略の内容は以下の通りである。

コンポジットの名称	投資戦略の内容
日本株式一般(合同口)	合同運用を行う、日本の全上場・公開銘柄を投資対象とするアクティブ投資戦略
日本株式中小型	日本の中・小型株を主要投資対象とする投資戦略
日本株式ロング・ショート (ドル建、Lev2)	日本株に対するロング・ポジションとショートポジションの合計を純資産の2倍の範囲内として安定した絶対リターンを追求するロング・ショート投資戦略
日本株式ロング・ショート (円建、Lev1)	日本株に対するロング・ポジションとショートポジションの合計を純資産の1倍の範囲内として安定した絶対リターンを追求するロング・ショート投資戦略
日本株式集中投資	少数銘柄の日本株式に集中的に投資する投資戦略

### 3. リターンに関する追加情報(過去5年の年度別リターン)

	2006年3月期	2007年3月期	2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期
日本株式一般(合同口)	60.69%	-14.57%	-28.93%	-34.48%	34.27%
日本株式中小型	44.34%	-11.86%	-28.95%	-25.64%	33.32%
日本株式L/S(ドル建、Lev2)	27.95%	-3.74%	-14.43%	5.95%	8.77%
日本株式L/S(円建、Lev1)	18.68%	-7.50%	-11.31%	-4.13%	6.03%
日本株式集中投資	48.94%	-18.71%	-10.14%	-25.67%	23.14%

この資料は、スパークス・グループ株式会社の株主および関心を有する方への情報提供のみを目的として作成したものであり、当社の株式またはその他の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・グループ株式会社もその関連会社も、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述(これらは未監査のものです)の正確性、完全性、妥当性等を保証するものでなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなら補償するものではありません。過去の実績値は将来のパフォーマンスを示唆または保証するものではありません。この資料には、スパークス・グループ株式会社(連結子会社を含む)の見通し、目標、計画、戦略などの将来に関する記述が含まれております。これらの将来に関する記述は、スパークス・グループ株式会社が現在入手している情報に基づく判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確実性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、将来におけるスパークス・グループ株式会社の実際の業績または展開と大きく異なる可能性があります。なお、上記の不確実性および変動可能性を有する要素は多数あります。以上の不確実性および変動要素全般に関する追加情報については、当社の有価証券報告書をご参照ください。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。この資料の著作権はスパークス・グループ株式会社に属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用、複製、配布、送信することを禁じます。

スパークス・アセット・マネジメント株式会社(スパークス・グループ株式会社の100%子会社)は、グローバル投資パフォーマンス基準(GIPS®)に準拠して本資料の関係部分を作成し提示しています。準拠主体である会社はスパークス・アセット・マネジメント株式会社、SPARX Overseas Ltd.、及び SPARX International (Hong Kong) Limitedで構成されます。スパークス・アセット・マネジメント株式会社は、日本において投資運用業、投資助言・代理業、第二種金融商品取引業等を行う金融商品取引業者として登録されています。

スパークス・グループ株式会社

郵便番号141-0032

東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー16F

Tel: 03-5437-9700 (代)